

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成 24 年 6 月 9 日（土） 午後 2 時～ 3 時 35 分
会 場 亀久保分館
天 気 雨

参加者 13 人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆この亀久保南町会の地域範囲はとても広くて、南は農村部が広がり、イオン付近にはマンションが多く、新住民がたくさんいるためか町会加入率が非常に低い。加入促進を図りたくとも新住民の中のキーマンがいない。組織率は市内で最下位であり、どのようにコミュニティを作っていくかが悩み。そんな中でも先日自主防災組織を立ち上げ 5 月 30 日に防災倉庫も設置した。しかし、町会自体に備蓄品を十分に備える力が無いので、備蓄品の面倒も見てもらえると助かる。規約も作ったが具体的に組織をどう動かしていけば良いのかが課題である。

☆今日のタウンミーティングで 13 回目になるが、どこの町会・自治会でも加入率の低下が共通の課題となっている様子。時代の流れなのか若年者の多くが町会に入るメリットを問う。行政としてもこれまでは、転入者等に対する町会・自治会への加入促進をしてこなかった経緯があるので、今後においては「地域の防災力を高める」という視点からも窓口において加入促進に対し、積極的に関わっていききたいと思う。町会・自治会側としてもこのピンチをチャンスと捉え、是非この震災後の今の状況を活かして加入促進に努めてもらいたい。大井本町エリアのタウンミーティングの際には、マンション管理組合の方が見えて町会加入について考えているとのことだった。3.11 の際に、実際に電気が止まり水が供給できなかったことを経験してのことだと思う。倉庫の資機材については、新規設置で 20 万の補助を出しており、併せて既存の倉庫への資機材も必要に応じて 20 万の補助を出している。また、防災に関する学びの分野にも 3 万円、防災計画を立てる場合にも 10 万円の補助制度があるので、経年的に利用していただきたいことと、行政としても計画づくりの際には協力させていただくのでよろしくお願いしたい。

◆イオンの近くに 28 世帯のマンションが建設され、先日管理会社の人が見えて 7 月に町会加入に関する説明会を行いたいとのこと。市からもその説明会に参加してもらえないか。

☆最近マンション管理会社も町会への加入アプローチをする傾向が見えてきているので、いい機会であると思う。日程等お知らせいただき、参加をさせても

raitai。

- ◆だんだん形勢も変化してきているのを感じるので、市からも強くプッシュして欲しい。

☆3.11 の際に実際水が上の階まで供給できなかった実態がこのような状況を生み出していると思うので、本当に今がチャンスだと思う。給水車を用意したとしてもトイレの水まで確保することは難しいので、一緒に加入促進をしていきたい。

- ◆通信手段が各種発達していても 3.11 の時など使えない状況があった。そんな時に役立つのが回覧板である。回覧板が回らなかったら何も情報を知ることができないと話し、強制的に加入させてしまえばいい。

☆日頃からの参加協力の働きかけがとても大切だと思う。いざという時の地域協力は大きな力を発揮するはずなので、行政も連携協力してマンションに対する参加加入を促進していきたい。

- ◆支部社協に関わっているが、町会に入っていないと回覧も回せないなので、募金活動にも参加してもらえず、額が落ちる一方である。このような点も改善しなければならない。

- ◆開発業者にもきちんと働きかけを行った方がいい。聞いた話によると新しく分譲住宅を購入した人が開発業者に町会加入に対する質問をしたところ、役員をやらされるような話をされたとのこと。是非、開発業者に対する指導も行うべきである。

- ◆班長になった人からの話であるが、4月から6月まで毎月連続で各家庭に集金して廻っており、とても大変であるとのこと。また、転入してきた人が町会に入っていない例として、今の状況がわずらわしくなくとても快適だと言っている。一度こういう経験をしてしまうとなかなか再度加入するのは難しいのではないか。広報やゴミの関係など町会に入っても何ら支障ない状況を何とかしなければ加入率は上がらないのでは。

☆町会加入が無くても市民の皆さんには公平に情報発信しなければならないので、非常に難しい。

- ◆富士見市との境に住んでいるためか、防災無線がとても聞き取りにくい。富士見市の方が何を言っているのか分かり易い。

☆計画停電の際も流し方についてとても難しかった。慎重さが必要だったり、スピーディーさが必要だったり。対応については非常に苦慮しているが、地域ごとの連絡は不可能なので、市域全体に流す内容として非常時には「落ち着いて行動してください」という内容になっていくと思う。また、防犯・防災メールやFメールでは防災無線で流している内容を同様に配信している。子育て世帯に対しては放射能の関係などもすぐに状況をお知らせしている。

- ◆先日の防災訓練の際には防災倉庫の中身も見せていただき大変参考になった。

☆これから図上訓練なども行っていく予定であるが、必ず避難所に逃げるという

意識を少し変えてもらいたい。地震などが発生した時間帯や曜日により様々なケースが考えられるが、どんな状況においても指定されている避難所が安全とは限らない。まず、身の安全を確保できる場所に自分の身に移してもらいたい。それが近所の畑であっても公園であっても、日常からそのような意識で安全な場所について認識を深めておいてもらいたい。このような状況から、最終的に避難所に集まってくる人の中には、たまたまそこを通りかかった人も含まれているかもしれない中、市としては備蓄品である食糧を、ほぼ3日間凌げる程度は用意させてもらっている。これからもっと増やしていきたいと考えているが、あの防災倉庫の中身を見ていただいて良かったと思う。

- ◆ビバホームの店長からは以前、防災拠点として使ってもらいたい旨の話があった。商品の中にはテントなど防災グッズがたくさんあるので、是非働きかけて欲しい。

☆ビバホームやイトーヨーカドーとは既に協定を締結している。

- ◆住民に周知してもらおうと大変安心できるので、皆さんに知らせて欲しい。まさに、これが避難場所以外の安心できる施設ということになるのでは。

- ◆ある程度大きな規模の地震が起きた時、小中学校の通学路においてブロック塀の倒壊が予想されるところはあるのか。危険地帯の把握等は市としてされているのか。

☆現在、多発している交通事故の関係もあり、学校を中心に通学路の安全に関する再点検をしている。また、市内でも交通安全対策会議を設置し昨日も様々な検討を行ったところ。7月30日の図上訓練の際には、町会、企業、消防団と連携し、地域における危険箇所の点検なども予定している。この事業は埼玉県との共催で実施するが、県内でも宮代町とふじみ野市の2つの自治体のみで実施する。

- ◆3.11の時には川越街道沿いのガソリンスタンドすべてが入店待ちの状態、それを回避する車の多くが旧道を使い、今も多くの車が旧道を使っているが、いつの間にか制限時速が30キロから40キロになり非常に危険である。生活道路なので制限速度は30キロに抑えて欲しい。川越市域の旧道はいまだに30キロなのに何故ふじみ野市だけ40キロなのか。警察にも聞いてみたがドライバーの良心に委ねるという答えにならない答えだった。

☆確認させていただき詳細はまた後日お知らせしたい。また、行政として警察に制限をお願いしていきたい。昨日の交通事故対策会議にも警察から出席いただいているので、今後も連携を強化していきたい。学校からの情報も地域からのこういった情報もととても重要な情報として活用していきたい。

- ◆東京都では家具の転倒防止グッズが各家庭に配布されている。いろいろな要望を出してもふじみ野市では財政難を理由に断られてしまう。

☆内容によって判断が違ふと思われるが、危険を回避するために必要な手段については優先順位をつけて対応していきたいと考えている。しかし、限られた予

算の中でモノの配布は難しいと思う。無駄を無くし工夫しながら財源を生み出していくしかない。市民の皆さんのご協力によりゴミの分別が進み、可燃ゴミの量が減った。これにより大井清掃センターを廃止する運びとなり、この効果として年間2億円の削減が可能となった。人件費も大幅削減をした。専門職だけは今年の春に採用したが、一般職の採用は2年間ストップさせてもらった。市民の皆さんからの要望に対し可能な限り応えていくために、事業のやり方を見直し無駄を省きながら貴重な財源を生み出していきたい。実際、平成24年度の災害関連の予算も全体予算から切り詰めて生み出した。今後も行財政改革の速度を速めて頑張っていきたい。ただ、国の制度によりいやおうなしに予算を投入しなければならないケースが非常に増えており、自由に予算措置できる時代ではなくなっている。予防接種などがその一例であるが、初年度は国の補助もあり実施すると次年度以降は補助が無くなっても継続実施せざるを得ない。一度事業実施してしまうと止められないのが現実である。生活保護も年金制度も高度成長期にできた制度であり、現代の社会情勢に合っていないから、いろいろなところでひずみが出ている。国が制度を見直さない限り市民生活に及ぼす影響がとても大きく、結局不満のはけ口は市町村の窓口になっている。このような状況下において自由な施策展開をするには若い世代の流入だと思う。まちを活性化させるためには、子育て世代の方達に数多く移り住んでいただきたい。ふじみ野市は合併後において3,000人以上の人口増があり、隣の富士見市を上回っている。その3,000人の7割が子育て世代であり、この状況がすぐに皆さまのサービス向上に反映されるかどうか分からないが、少しずつでも皆さまの要望に応えられるよう頑張っていきたい。

- ◆子ども優先と市長も常々言っているが、さいたま市ではその子ども達に「災害時携帯カード」を持たせると今朝の新聞に書いてあった。ふじみ野市では何か考えているのか。

☆先進事例から学び具現化できるものはしていきたい。

- ◆消防署の建て替えに対して周辺道路の問題がよく出てくる。渋滞などの問題にはきちんと対応していただきたい。支所窓口の充実についてもお願いしたい。複合施設の2,3階について内容がよく分からないので、十分な説明をお願いしたい。

- ◆車の無い人たちにとっては本庁まで行くのは大変である。必ず支所で手続きが完結するようにお願いしたい。そうでなければシャトルバスを走らせて欲しい。

☆今はだいぶ支所に対するクレームが減ってきている。

- ◆支所に行っても駄目だから本庁まで行っているのではないか。だからクレームも減っているのでは。

☆かなり行政としても対応を考え、支所窓口の充実に傾注し改善を図っている最中である。また、支所周辺道路の整備についても、より良い道路環境に向けて最善の努力をしていきたいと考えている。

※川越街道旧道の制限時速の変更時期（30 キロから 40 キロへ）
平成 16 年 1 月 21 日から